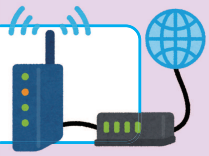
KCN TEC Guide Vol.138



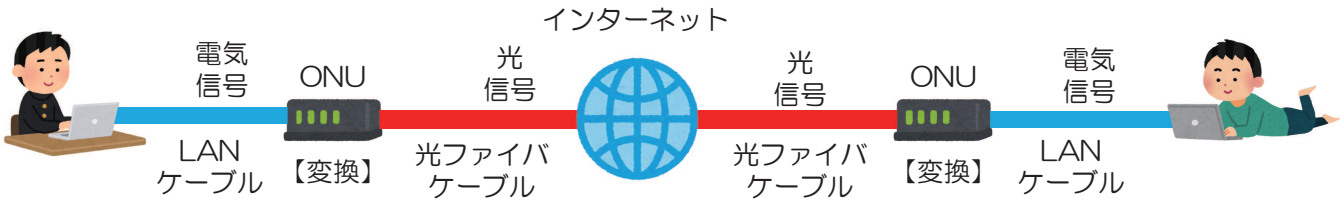
光ファイバケーブルの仕組み

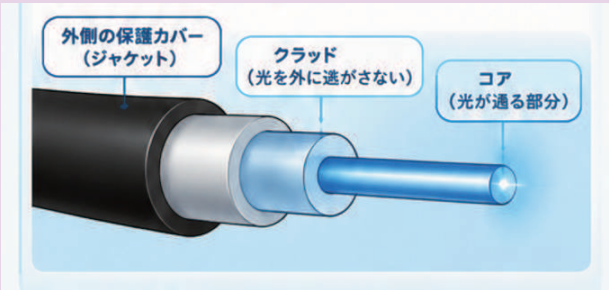


高速でインターネットサービスを利用するためには、光ファイバケーブルは欠かせないものです。しかしどうやって信号を送っているのかあまり知られていないと思います。今回はそんな光ファイバケーブルについて、信号の送り方や中身についてご紹介いたします。

光ファイバケーブルについて

光ファイバケーブルとは、非常に細いガラスの線でできており、ガラス線内部で光信号を反射させて通信を行います。インターネット上で動画や音楽等のデータは「電気信号」として存在しているため、光ファイバケーブルでデータのやり取りをする場合は「電気信号」を「光信号」に変換してデータの送受信を行います。光の反射で信号を送受信するため、高速かつ安定した通信を行うことができます。





中はこうなってます！

光ファイバは「コア」とそれを覆う「クラッド」と呼ばれる層でできています。クラッドは光を反射するようになっているので、光は外に出ていかずにコアの中を通っていきます。

光ファイバが折れそうな時はご注意を！



便利な光ファイバケーブルですが、取り扱う時に注意が必要です。ケーブルの中身はガラスでできているので、過度に折り曲げると中のガラスが割れてしまったり、反射が上手くできず通信ができなくなってしまうことがあります。機械やケーブルを移動させた後からインターネットができなくなった場合、修理が必要な可能性があります。その際はNETサポートにご連絡ください。

KCN 近鉄ケーブルネットワーク

■NETサポートお問い合わせ（24時間受付）

0120-333-892